

平成21年度 学校評価報告書

(鳥根県立隠岐高等学校)

評価項目	領域	中期目標	短期目標	成果・取組指標	自己評価	評価	学校関係者評価	改善策
					達成状況	9月/1月		
学校運営	環境整備	働きやすい環境の構築 学びやすい環境の構築	・教職員間のコミュニケーションを図り、風通しのよい職場づくりを行う。 ・ハード、ソフト両面で学習や諸活動に適した環境づくりを行う。	・教職員の自己評価（総合評価）で3以上（4段階）を目指す。 ・生徒による授業評価を検証し、環境改善を図る。	・隠岐高アカデミーを始めとする新しい試みが始まり、それに際して互いに意見を交換し、軌道にのせようとする気運が感じられ、協同的雰囲気できた。 ・来年度のエアコン設置に向けて、各方面と交渉し、動き出すことができた。	3.1 3.2	・教室へのエアコン設置に尽力いただき感謝している。また、学校周辺の通学路と街灯の整備が概ね完了安心している。 ・近隣小学校での勉強指導など、キャリア教育に積極的に取り組む姿勢が素晴らしい。 ・学校再編に関して管理職以外の教職員の意識が薄い。水産高校とも連携し、隠岐の子を育てたい。 ・学校通信を広範囲に送付されて学校の様子がよくわかった。 ・校内の壁（チョーク化）の整備を望みます。 ・学びやすく、働きやすい環境とはどのような環境なのか、具体策を検討されたほうがよい。 ・PTAの学校内外での活躍を期待している。	・教育環境の整備に向けて、意見を集約し、生徒にとって学びやすく、教職員にとって働きやすい環境づくりに向けた。
生活指導	人権尊重の精神の育成	自他を尊重する精神の育成 豊かな人間性の育成	・共通理解の下に、生徒一人ひとりに目を向けた指導を行う。 ・生徒の悩みや問題を的確に把握し、連携のもとに解決を図る。	・教職員の自己評価で3以上（4段階）を目指す。 ・人権に関するアンケートを実施し、意識調査と実態把握を行う。 ・生徒理解の職員会議を開催し、共通理解を図る。	・概ね共通理解をしながら指導にあたる事ができた。 ・さまざまな悩みを抱える生徒に対して、教育相談・不登校対策委員会と学年部で連携を図り支援を行なった。また、スクールカウンセラーを有効に活用し、生徒や保護者の支援を行なうことができた。	3.4 3.6	・島内で高校生の問題行動を耳にすることがない。互いを思いやる態度が育っているのと思う。 ・今後一層連携を図り、一人ひとりを大切にすることを継続して欲しい。 ・敷地外であっても、教職員の喫煙はどうかと思う。	・悩みを抱える生徒一人ひとりの状態に応じた適切な対応ができるよう、連携強化を図りたい。 ・今後も人権に関する意識調査を継続し、自他を尊重する精神の育成に努めたい。
	規律ある生活態度の育成	規範意識の定着 基本的な生活習慣の確立	・高校生らしい頭髪・服装を心がけさせる。 ・挨拶・礼儀作法を身につけさせる。 ・交通マナーを守るよう指導する。 ・保健調査・健康観察を行い、健康状態を把握する。	・教職員の自己評価で3以上（4段階）を目指す。	・計画的、定期的に声かけを行い全体としては成果が見られた。しかし、夏季の服装指導に課題を残した。 ・挨拶をする生徒が増えてきているが、場に応じた言葉遣いがまだ十分ではない。 ・啓発のための看板を設置したり、通学指導を定期的に行なった。 ・今年度は新型インフルエンザ流行に伴い、教職員間の健康状態把握の体制を確立することができた。	3.1 3.1	・マラソンなどのイベントのボランティア参加をされているが、地域の祭りや伝統行事への参加も促進して欲しい。 ・生活習慣は家庭で教育することなど、家庭や地域との連携を一層図るとよい。 ・生徒の身だしなみが良く感じている。 ・教職員の挨拶に元気がない。 ・挨拶は何のために行なうのかという基本的なことを理解していない生徒もいると思う。地域に足を運び、大人と関わる機会を通して理解させることも必要だと思う。	・集会を利用するだけでなく、日常の指導や啓発を学年会と協力しながら徹底したい。 ・社会人として相応しい言葉遣いを身につけるよう、日々の対話を通じて指導したい。 ・生徒によって時間の異なる下校時の自転車通学生のマナーの徹底を図りたい。 ・生徒の健康観察を今後も継続し、充実した学校生活が送れるよう支援したい。
学習指導 ・進路指導	確かな学力の養成	基礎・基本の定着 主体的な学習態度の育成	・時間割変更を適切に行い、授業時間を確保する。 ・習熟度別指導や少人数指導により多様な学力の生徒に対応する。 ・十分な家庭学習時間を確保できるよう課題などを提示する。 ・定期試験前に学校開放し、学習習慣の確立を支援する。 ・「朝読書」の時間を活用し、読書への関心を高める。	・教職員の自己評価で3以上（4段階）を目指す。 ・生徒による授業評価を検証し、改善に役立てる。 ・定期的に学習時間調査を実施し、実態を把握・検証する。	・時間割変更や行事の精選により、授業時数の確保に努めた。 ・不認定科目を保有する生徒が減ったことから指導の効果が出ていると思われる。 ・課題量の調整を図り、家庭学習を行いやすい環境づくりに努めた。 ・学校開放を利用する生徒は限られた生徒であるが、学習の場を提供することはできた。 ・「朝読書」は計画通りすすめることができた。	2.9 3.0	・本土の高校へ進学する生徒を地元に残すために、自信を持って取り組んで欲しい。 ・外部から見ると生徒も先生方も頑張っていると思いますが、低評価なのは生徒の学力差のせいでしょうか。	・来年度は授業時数統計を徹底し、各教科ごとの授業時数の確保に一層努めたい。 ・理解に苦しむ生徒への補充授業の実施など、学力保障に努めたい。 ・平均的な学習時間は決して多くないので、学習の意義や必要性を説き、時間増を図りたい。 ・家庭以外に学習の場を求める生徒がいるので今後も必要に応じて学校開放を実施したい。 ・「朝読書」が読書量の増加につながるよう、検証と改善を図りたい。
	進路目標の実現	望ましい職業観の育成 能力・適性の開発	・進路情報を充実させ、適切に提供する。 ・進路シラバスを活用する。 ・補習授業を計画的に実施し、学力充実を図る。 ・土曜補習を実施し、学力充実と意識向上を図る。 ・専門知識の習得や資格取得に対する適切な指導を行う。	・教職員の自己評価で3以上（4段階）を目指す。 ・各種検定試験の合格者数を増やす。	・進学説明会出席後、その内容を全教員に周知した。 ・シラバスは、本年度も学年集会や保護者集会等で活用できた。 ・補習授業は計画的に実施し、生徒の受講意欲もあり、学力向上につながっている。 ・部活動の遠征のため全員がそろわないこともあったが、計画通り実施できた。 ・今年度も、日商簿記対策として外部講師を招き、生徒の意識向上や教員の指導力向上に役立った。また、資格取得においても多くの生徒を支援することができた。	3.0 3.3	・就職難の時代であるが、資格取得の必要性を説き、多くの生徒を支援して欲しい。 ・多くの業種の人の話を聞く機会を持たれたが、素晴らしいことだと思う。 ・卒業後、一人でも多くの子どもが「島」に帰って来れるよう郷土愛の育成を望みます。 ・厳しい時代なので、高校時から目標をもって学んで欲しいと願います。改善策が達成されることを期待します。	・山陰両県の大学や専門学校等の情報を適宜生徒や保護者、そして教職員に周知したい。 ・三年間の進路計画をシラバスを用いて周知したい。 ・計画的に補習授業を実施し、学力保障に努めたい。 ・土曜補習は開始から5年経過し、生徒の意識を喚起することができた。今後は、学力向上に向け内容等について改善を図りたい。 ・資格取得は生徒の進路保障につながるため、今後も事前・事後の指導を充実させたい。
安全管理	安全対応能力の向上	危機管理体制の確立 危機回避・対応能力の向上	・危機管理マニュアルを作成し、事故発生時に対応できる体制を整える。 ・学校防災計画を作成し、計画的に実施する。 ・安全点検を計画的に実施し、安全な環境整備を図る。	・教職員の自己評価で3以上（4段階）を目指す。 ・防災訓練・安全点検の実績について報告できる。	・危機管理マニュアルを全職員に配布し、事故対応体制を整えた。危機管理研修の内容を伝達した。 ・総務部と連携し、学期に一回、防災訓練を実施することができた。雨天のため屋外での消火訓練が実施できなかった。 ・保健部を中心に、計画的に安全点検を実施し、修繕を要するものについては事務部で迅速に対応した。	3.5 3.3	・学校周辺に街灯が増設されることを望む。 ・玄関が薄暗く、来客者として入りにくい印象を持つ。また、暗い学校という悪いイメージを来客に与える可能性がある。 ・防犯の意味でも照度をあげるよう望みます。 ・防災訓練を計画的に実施されており、素晴らしいと思います。今後も継続して欲しいと思います。	・外部講師を招いた危機管理研修の実施の可能性を探るとともに、各種研修会への参加を促したい。 ・防災訓練が、訓練のための訓練に終わらないよう配慮したい。 ・生徒の安全確保のため、定期的安全点検だけでなく、校内設備に不備がないか確認する意識を定着させたい。